

4 ハウス休閑期（6月～9月上旬）利用トマトの摘心段位と栽植株数（園試南部分場）

(1) 背景

半促成イチゴの後などハウスの休閑期（6月～9月上旬）を利用した野菜栽培として、夏秋きゅうりや、夏出しほうれんそうなどの栽培が行われている。トマトもその候補品目の一つとして、特に摘心段位と栽植株数を中心に検討した結果、収量や品質が確保される摘心段位株数が判明し、ハウス利用で、裂果が少なくなる特徴がみられた。いちご等のハウスの休閑期における有効活用を促進する対策の一環として、今後主産地形成をすすめようとする夏秋トマトの基本技術を普及するため指導上の参考とする。

(2) 技術内容

1) ハウス休閑期（6月～9月上旬）利用トマト栽培の摘心段位は、3～4段とし、株数は、10a当り4,500株とする。

（間口5.4mのハウスは、畦幅180cm、株間24cm条間50cm、2条植で10a4,500株となる。）

適応地域……………県下全域

(3) 指導上の留意点

1) 定植時期

定植を6月上旬に行えば、いちごの定植（9月中旬）にほとんど支障がない。

2) 育苗日数は約60日、4月上旬播種、その他育苗一般は夏秋トマトの育苗に準ずる。

3) 開花3～4花時、各段ともトマトトン100倍夜を霧吹で、噴霧し着果を確実にする。

4) 施肥、前作も後作も肥料が残っていると考えられるので、土壌検定後施肥するようにする。

5) 灌水や病害虫防除は、一般のハウストマト栽培に準ずる。

6) ハウスの屋根は、かけたまま、サイドは定植後8月中旬頃まであけたままにしておく。

7) 誘引は、針金、ひも、又は支柱誘引でもよい。

(4) 試験結果の概要

1) 試験課題名 9～10月どりトマトの栽培（52年）

2) 試験年次 休閑期利用トマト栽培（53年）

昭和52～53年

岩手園試南部分場

3) 試験方法

(1) 試験区

(S 5 2 年)

区 番	区 別	畦幅×株間
1	1 段摘心 12,000 株	135 cm × 12 cm 2 条
2	2 " 9,000 "	135 × 16 "
3	3 " 6,000 "	180 × 18 "
4	4 " 4,500 "	180 × 24 "
5	6 " 3,000 "	180 × 37 "

② 品種 強力米寿

③ 耕種概要

播種 5月3日, 仮植 6月6日, 鉢上 6月29日

定植 7月12日

施肥量 (1 0 a 当) N 16.8 kg P 32.9 kg K 15.6 kg

(S 5 3 年)

区 番	区 別	畦幅×株間
1	3 段摘心 4,500 株	180 cm × 24 cm 2 条
2	3 " 6,000 "	180 × 18 "
3	4 " 4,500 "	180 × 24 "
4	4 " 6,000 "	180 × 18 "
5	6 " 3,000 "	180 × 37 "
6	4 " 4,500 "	180 × 24 "
7	6 " 3,000 "	180 × 37 "

(1 ~ 5 はパイプハウス, 6, 7 は, 露地)

① 品種 強力米寿

② 耕種概要

播種 4月8日, 仮植, 鉢上 5月9日

定植 6月9日

施肥量 1 0 a 当) N 28.3 kg P 33.3 kg K 28.3 kg

4) 試験結果

① 収量

○ 収量の最も高いのが4段摘心、4,500株区で、10a当り7,683kgであった。次いで3段摘心6,000株区の6,784kgであった。

1段摘心12,000株区は収量が極めて低い結果を示した。(S52年)

○ 収量の最も高いのが4段摘心6,000株区で10a当り10,650kgであった。次いで3段摘心6,000株区、8,895kg、4段摘心4,500株区、8,468kg、3段摘心4,500株区、7,925kgの順であった。(S53年)

(株数が同一の場合、摘心段位の高い方が高く、摘心段位が同じ場合は、株数の多い方が収量が高い傾向。)

② 平均果重

○ 密植になるほど平均果重が下る傾向がみられた。

6段摘心、3,000株区が168.4g、4段摘心4,500株区166.6gで高く、1段摘心、12,000株区が最も低かった。(S52年)

○ 株数の多いほど平均果重が下る傾向がみられた。

6段摘心、3,000株区183gで最も高く、次いで4段摘心4,500株区173gであった。(S53年)

○ 裂果は露地区に比較して、ハウス内各区が少なく、大差が認められた。一般には、株数が少なくなるほど裂果が増える傾向がみられた。(S53年)

③ 収穫期は、3段摘心と4段摘心の各区は8月でほとんど収穫が終ったが、6段摘心区は、9月に残る量が他区より多かった。(S53年)

以上からハウス休閑期利用(6~9月上旬)のトマトの摘心段位は4段と3段がよく栽植株数は(4,500株が平均果重が6,000株区より高いことから)4,500株が無難と思われる。

(5) 主要成果の具体的データ

1) 収量、品質(S52年、定植が遅く7月12日)

区別	項目	平均果重		正常果率	B規格果率	小玉果	空洞果	尻腐果	すじくされ果	軟腐病果	裂果	収量正常果10a当)
		正常果	全果									
1	1段摘心12,000株	156.5	123.1	48.4	1.3	37.3	—	11.1	3.3	—	0.7	3,073
2	" 9,000	161.9	133.5	58.4	1.7	37.8	—	1.7	2.1	—	0.4	6,010
3	" 6,000	161.1	137.9	64.1	0.8	32.9	—	0.3	2.7	—	2.7	6,784
4	" 4,500	166.6	154.7	72.6	2.6	24.5	—	1.1	1.7	—	3.4	7,683
6	" 3,000	168.4	158.0	76.9	2.5	19.3	—	—	3.8	—	8.9	6,168

2) 収量, 品質 (S53年, 定植6月9日)

区別	項目	平均果重		正常果率	B規格果率	小玉果	空洞果	尻腐果	すぐぐされ果	軟腐病果	裂果	収量(正常果10a当)
		正常果	全果									
3段摘心	4,500株(ハウス)	173	164	76.6	1.1	12.0	1.5	0.2	2.2	0.7	5.7	7,925
3	" 6,000 (")	165	154	71.7	1.2	15.9	1.2	—	2.8	0.8	6.4	8,897
4	" 4,500 (")	176	167	71.6	0.3	9.0	1.0	0.3	2.0	1.7	14.0	8,468
4	" 6,000 (")	163	158	76.7	0.7	9.5	0.7	0.4	2.1	0.4	9.0	10,650
6	" 3,000 (")	183	185	64.9	1.2	6.9	2.1	0.5	3.3	0.5	20.6	7,510
4	" 4,500 (露地)	171	168	54.9	0.8	9.1	—	6.7	2.0	1.0	25.4	8,178
6	" 3,000 (")	191	174	43.7	0.3	8.3	0.3	9.1	3.0	5.0	29.5	7,302

3) 時期別収量

(S52年10a当りkg)

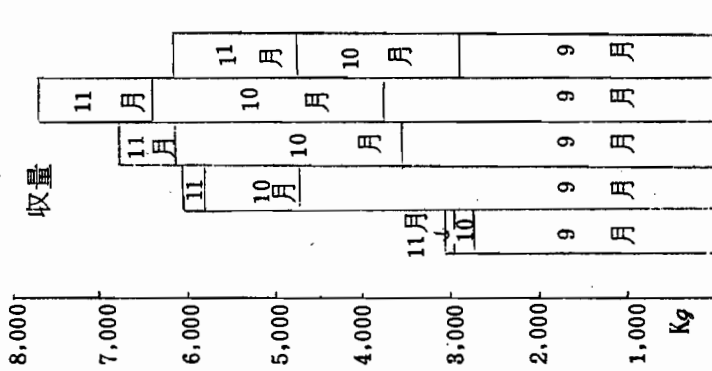
区別	項目	正 常 果				収 穫 期 間
		9 月	10月	11月	計	
1段摘心	12,000株	2,760	183	130	3,073	9/6~11/7
2	" 9,000 "	4,709	1,089	212	6,010	"
3	" 6,000 "	3,562	2,574	648	6,784	"
4	" 4,500 "	3,753	2,638	1,292	7,683	"
6	" 3,000 "	2,893	1,838	1,437	6,168	"

4) 時期別収量

(S53年10a当りkg)

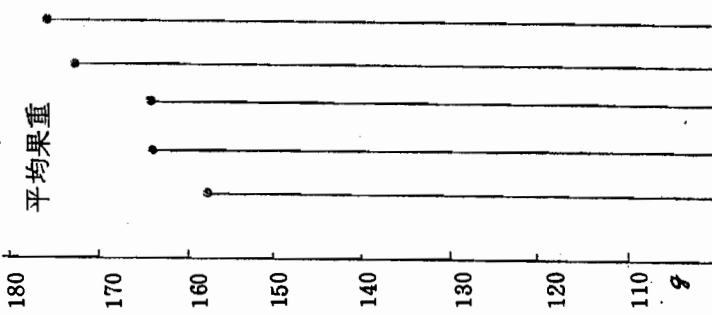
区 別	項 目	正 常 果				収 穫 期 間
		7 月	8 月	9 月	計	
3段摘心	4,500株(ハウス)	2,565	4,978	382	7,925	7/24~9/28
3	" 6,000 (")	3,012	5,339	546	8,897	"
4	" 4,500 (")	2,362	5,699	407	8,468	"
4	" 6,000 (")	2,690	7,634	326	10,650	"
6	" 3,000 (")	1,377	5,048	1,085	7,510	"
4	" 4,500 (露地)	2,203	5,892	83	8,179	"
6	" 3,000 (")	1,584	5,242	476	7,303	"

52年
収量



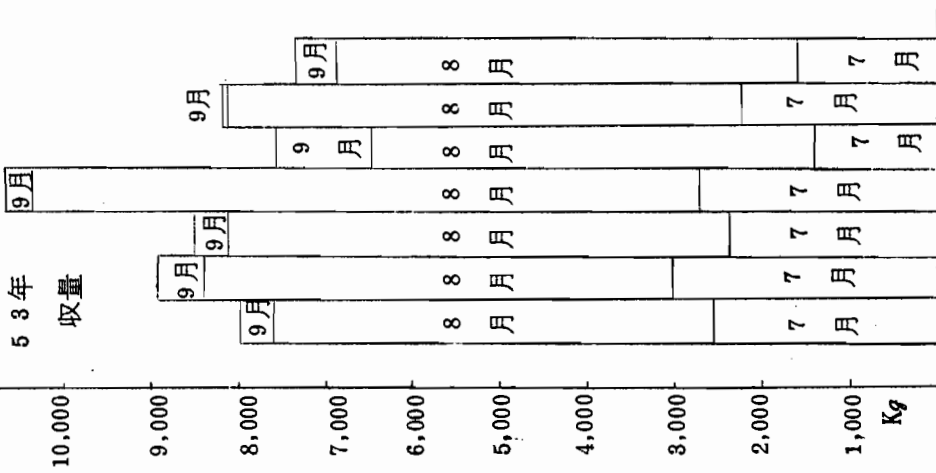
六段 "三〇〇〇" (ㄟㄟ)
 四段 "四五〇〇" (ㄟㄟ)
 二段 "六〇〇〇" (ㄟㄟ)
 一段 "九〇〇〇" (ㄟㄟ)
 一段摘心 二〇〇〇株 (ㄟㄟ)

52年
平均果重



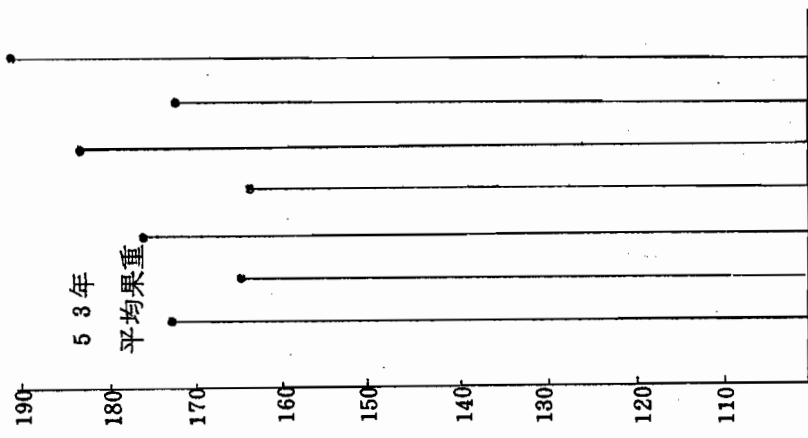
六段 "三〇〇〇" (ㄟㄟ)
 四段 "四五〇〇" (ㄟㄟ)
 三段 "六〇〇〇" (ㄟㄟ)
 一段 "九〇〇〇" (ㄟㄟ)
 一段摘心 二〇〇〇株 (ㄟㄟ)

53年
収量



六段 "三〇〇〇" (露地)
 四段 "四五〇〇" (露地)
 六段 "三〇〇〇" (ㄟㄟ)
 四段 "六〇〇〇" (ㄟㄟ)
 四段 "四五〇〇" (ㄟㄟ)
 三段 "六〇〇〇" (ㄟㄟ)
 三段摘心 四・五〇〇株 (ㄟㄟ)

53年
平均果重



六段 "三〇〇〇" (露地)
 四段 "四五〇〇" (露地)
 六段 "三〇〇〇" (ㄟㄟ)
 四段 "六〇〇〇" (ㄟㄟ)
 四段 "四五〇〇" (ㄟㄟ)
 三段 "六〇〇〇" (ㄟㄟ)
 三段摘心 四・五〇〇株 (ㄟㄟ)

5) 残された問題点

- 1) 小玉果率の縮小
- 2) 空洞果の発生防止
- 3) 裂果防止の向上

5 モミジガサ（シドケ）の挿木繁殖法（園試兩部分場）

(1) 背景

モミジガサは独得の風味で市場性が高くなってきているが、その繁殖法として従来山掘りが多く一部挿木繁殖・実生繁殖が行われてきた。挿木は川砂や鹿沼土を用土とした天挿が行われているが、この方法では用土の川砂や鹿沼土が大量に必要である。また天挿は、一般的な挿木法であるが、増殖能率が低い。そこで、その他の挿木法を探さく検討した結果、手軽に良品の苗が得られ、増殖能率も高い挿木方法が見い出された。今後、各地域の主力品目に複合する地域特産品目開発の一環として、シドケをとりあげ、その繁殖技術を普及するため指導上の参考とする。

(2) 技術内容

1) 挿木方法

横伏3節～4節挿にする。（母本1本から子苗が約3～4本でき子苗重も良い。）

2) 挿木材料

茎の太さの大小による着生子苗重差が大きいので、太茎～中太茎（直径0.8cm～0.5cm）を優先的に用いる。

3) 挿木用土

用土の種類によって着生子苗重大差がでる。用土は壤土がよく、次いで砂壤土がよい。（ごく普通の畑土と考えてよい）

4) 挿穂の調製

適期挿で、節下2～3cmぐらいで切断して挿す。挿穂の先端に残す葉枚数は、大きめの葉を2枚、小さめの葉2枚、計4枚ぐらいにする。

5) 挿木の時期

挿木時期が早いほど挿木後の草丈、葉数が増え着生子苗重が大きくなる。挿込節数と挿穂の先端に残す葉が確保できたら早い方がよい。（5月中～下旬）

(3) 指導上の留意点

1) 挿木の要領

① 挿穂の調製

挿穂はカミソリの歯で切り、水あげする。